

自然が織りなす住みたいまち



いとうかつみ
伊藤勝美
ごせん
五泉市長(新潟県)

豊かな自然と清流の里

五つのいずみ(泉)と書いて五泉市(ごせん市)といえます。名の通り水の豊富な市です。

本市は、新潟県のほぼ中央に位置し、351・91km²、人口約4万9600人の市です。山紫水明、緑豊かな山々と阿賀野川・早出川・能代川等清流に包まれた肥沃な大地と水が、豊かな実りをもたらします。雪解けとともに五泉の花シリーズが始まり、3月末、2・1haの湿地に3万株の水芭蕉が咲きそろいます。4月になると、日本のさくら名所100選に選ばれた3000本の「村松公園」の桜と、国の天然記念物に指定されている「小山田彼岸桜樹林」。約3haのチューリップ畑に150万本の色鮮やかな花が楽しめます。5月には「ぼたん百種展示園」で、色とりどりのぼたん120品種・5000株が大輪の花を咲かせます。ちなみに昨年は、一株に最高76個の大輪を付けました(見事です)。ぼたんが終わるころに、0・5haに40品種・2100株植栽された「芍薬」の花が、可憐に鮮やかに咲きます。夏は清流・川遊び、秋は紅葉・収穫の秋。米はもちろんのこと、さといも・レンコン・イチゴ・キウイフルーツ・栗・銀杏・養殖鯉など、数多くの特産物を出荷する食料生産地です。冬は雪景色と日本の原風景。このように、市民はもちろん国内外

の大勢の皆さんに、四季を通して楽しんでいただいています。

また、伝統と歴史を持つ絹織物産業と戦後目覚ましい発展を遂げたニット産業は「五泉といえばニット、ニットといえば五泉」とブランドとしても、全国的な産地になっています。

令和の大嘗祭 供納2点

令和元年、天皇の代替わりに伴い催される皇室行事「大嘗祭」。天皇陛下が儀式に臨む悠紀殿に置かれる絹織物「繪服」。製織は横正機業場(株)が担いました(本市は京都の丹後、滋賀の長浜と並ぶ「日本三大白生



自慢のさといもが二代にわたり大嘗祭に。左から2人目が筆者

地産地」の一つです)。五泉産地の特徴「濡れ緯」の技術で織られ、緯糸を水にぬらすことにより、高密度で光沢が際立つ仕上がりとなります。横野恒明社長は「ひとえに水にぬらすと言っても、鉄分が少なく長時間水に浸しても変色しない五泉の水でなければ、美しい白さのまま織り込むことはできません。五泉産地の200年の歴史、先人が育んだ技術のおかげです」と話され、供納されたことを喜んでおられます。もう1点。名実ともに市の特産品である、さといも「帛乙女」。平成の大嘗祭に供納されましたが、令和の大嘗祭においても「庭積の机代物」として選ばれました。JA



1,200人のいも掘り体験で賑わう「さといもまつり」

新潟みらい五泉園芸組織連絡協議会の伊藤隆夫会長も言います。「限られた土壌からしか生まれえない、他では類を見ない美しい白さとぬめりです。先人が育んだおかげ」と同じ言葉を発します。

この2点は五泉の水と土だからこそできる、美しい「白」の逸品です。

智・情・意 当たり前前の種まき

私は、21歳から家業の瓦業に就きました。観世流謡曲（現在も趣味として嗜む）を習い始め地域活動をしながら、瓦に関する3資格、かわらぶき1級技能士・瓦屋根工事技士・瓦屋根診断技士を取得し、



150万本のチューリップは、まるで花の絨毯

職人として業界の役員などをしておりました。40歳に代表取締役就任。平成8年45歳の時、村松町議会議員選挙出馬の話があり、当選しました。今まで信条として大切にしてきた言葉は三つあります。一つ目は、「和を以て貴しとなす」。これは申すまでもなく、聖徳太子が作った17条憲法の第一条です。二つ目は、政治に携わり「住民の幸せづくりのために」。三つ目は、私の高校卒業時、校長の式辞の中の「君たちは、平凡でいいから常識ある一般人になりなさい」との言葉。常識ある一般人とはなんぞや。常識とはなんぞや。ずっと頭から離れず、私なりに解釈をしながら生活をしてまいりました。

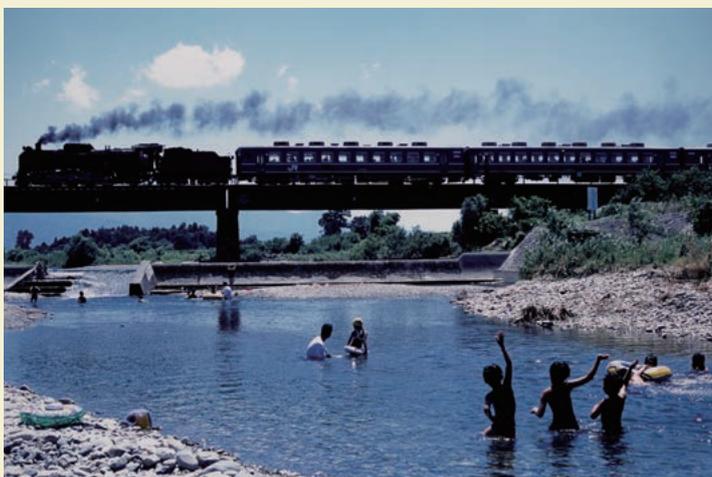
町議会議員を6年務めて、町長選出馬。当選はしたものの、最大課題であった合併の議論（町民は幸せになれるのか）と、三市中蒲原郡（新津市・白根市・五泉市・亀田町・横越町・小須戸町・村松町）の市町と新潟市との関係が思い出されます。紆余曲折を経て、平成18年1月村松町は五泉市と合併し新生五泉市となり、他は新潟市と合併しました。私は、当然1期4年で失職しましたが、縁があつて、市長職務代理者、助役・副市長を3年勤め、平成22年1月の市長選挙に出馬して当選をすることができ、現在（3期目）に至ります。

常識とはなんぞやいやっと巡り合いました。副市長の頃です。「近代日本の資本

主義の父」と呼ばれる、渋沢栄一氏著『論語と算盤』の中の「常識とは如何なるものか」で、「智恵と情愛と意志との三者があつてこそ、人間社会の活動もでき、物に接触して効能を現してゆけるものである」と説いています。

最近「凡事徹底」にはまっています。（株）イエローハットの創業者である、鍵山秀三郎氏が生み出したといわれております。何でもないことを徹底的に行うこと、当たり前前のことを他人の追従を許さないほど極めるといふ意味だそうです。

こういつた心で、市民の幸せづくりのために頑張りたいと思っております。



清流が育むまち、夏のレジャーは川遊び